

“社会を明るくする運動”

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

7月10日に中央大会
「区民のつどい」を開催しました!



《“社会を明るくする運動”とは》

すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。毎年7月を強調月間として全国で展開されています。



セレモニーの様子

プログラム

第一部 セレモニー

作文コンテスト表彰式
推進委員長賞・常任委員長賞作品発表

「いのち」「社会を明るくする運動」を題材に、区内小中学校の皆さんから1,731点もの応募をいただき、その中から小中各5作品の表彰を行いました。

第二部 合唱・演舞・演奏音楽会

～出演団体～

すがも児童合唱団
中高生センタージャンプ東池袋(たつやとつかさ)
富士元囃子連中
東京音楽大学

多彩な分野での素晴らしいステージ内容で、観客を魅了しました。



すがも児童合唱団



富士元囃子連中



中高生センタージャンプ東池袋
(たつやとつかさ)

東京音楽大学

“社会を明るくする運動”にご協力頂いている団体(順不同)

(寄付金)
株式会社 アール・エス・シー 集鴨庚申堂奉賛会
株式会社 サンシャインシティ 藤久地所管理株式会社
株式会社 藤久不動産 東京商工会議所豊島支部
株式会社 東武百貨店 池袋店 東京信用金庫
宗教法人 高岩寺 豊島区商店街連合会
宗教法人 西福寺 豊島区町会連合会
宗教法人 祥雲寺 豊島区保護観察協会
宗教法人 眞性寺 豊島西ライオンズクラブ
宗教法人 法明寺

(寄贈)
集鴨信用金庫
東京信用金庫
東京都薬物乱用防止推進豊島地区協議会



おじいちゃん

目白小学校 5年生
しもだ てつや
下田 哲也さん



ばくのおじいちゃんは、九十一才です。今は、練馬の家で一人で暮らしています。ばくが小さいときは、とても元気で、近所の人を集めて、中国語の先生をしていましたが、だんだん会話が難しくなってきた、最近では、耳がとおくなったり、ものわすれがひどくなっていました。そんな中、一年前には、オレオレサギにかかりそうになって、大さわざになりました。そしてこの連休中には、全く使い方がわからないのに、自分から、スマートフォンと、タブレットを買ってしまい、父におこられました。このことに、父は、一緒に暮らしてあげていたらこんな大変な思いをさせずにいられたのに、罪悪感を感じていると言っています。

ばくのおじいちゃんは、おばあちゃんが亡くなってから、食事はコンビニのお弁当と、夕食は、お弁当を運ぶ人に運んでもらいます。でもばくは、毎日同じようなお弁当であきてしまうだろうし、一人で食べるのも、かわいそうだと思います。

きん意運らく先があり、何かがあった時は、すぐに助けてもらえます。でもばくは、本当に助けの人がすぐに来てくれるのが、心配です。

こんなにおじいちゃんが大変な思いをしているのになぜ、一緒に住まないのか、父にきくと、「核家族化」だと言っていました。

昔は、おじいちゃん、おばあちゃんと暮らすのがふつうだったそうです。しかし、今は、子供が大きくなると親からはなれて、一人で生活するようになりました。

ばくのおじいちゃんだけでなく、一人暮らしで、大変な思いをしているおとしよりが、たくさんいると思ったので、どうしたら、おとしよりが安心して生活できるか考えました。

たとえば、小中学校などで、かえる前、登録したおとしよりの家を回り、玄関であいさつをする、「おとしよりパトロール」や、他にも、「育児休か」のような、「育老休か」をとれるようにすれば、休みをとって、父も祖父のために時間を使うことができるはずだ。

世の中には、おとしよりだけでなく、こまっている人や、大変な思いをしている人がたくさんいると思います。ばくはそのような人になりたいが、こまでもよくなるように、相手のことを考え、思いやりの心を持つことこそ、社会を明るくすることではないかと思っています。



一日一日を大切に

目白小学校 6年生
やまもと ゆいな
山本 唯那さん



命。私は、生きているもの一つしかない一番大切なものだと思います。

身近で命のことを考えることはあまりありませんが、最近、熊本県で大地震が起これり、テレビで毎日のようにぎせいにあった方がたの名前が流れていたり、家がこわれて住む場所がなくなったりしていることを知り、命ということについて考えるようになりました。今、ついさっきまで元気だった人が、数秒の地しんで命を失ってしまいます。自然災害をとめることはできませんが、事前に準備ができると思います。私にできることは、避難訓練を真剣にすることだと思います。こうやって一人一人が意識することで、命が一つでも多く救えるようになると思います。

人間は、他のたくさんの生き物に支えられて生きています。ぶたや牛や魚などの命をもらって生きています。しかし、ありがたみを持たずにあつかい、そまつにしてしまっていないでしょうか。勝手に生き物の命をうばっておきながら、余ったりと平気で捨ててしまっています。そして、人間の都合で肉をとりすぎてしまったり、くらす場所が減ってしまっていることが多く原因で、約二万種類の生き物が絶滅の危機にさらされ、絶滅した生き物は八百六十種類あると報告されているそうです。また、人間は植物にも支えられています。花は、私たちに安らぎを与えてくれます。木は、山崩れを防いだり、酸素を作ったり、匂いの成分で安らかな気持ちにさせてくれたり、元気にしてくれたり、つかれやストレスをとってくれたり、家をつくる材料にもなります。こうして、地球のためにたくさん働いてくれているのです。人間は、もっと他の生き物にありがたうという気持ちを持って過ごすべきではないでしょうか。

今現在でも、世界中に戦争をしている国があります。そのせいで、何の関係もない人たちの命がぎつぎつと失われてしまっています。戦争をしているの本当の大切なものは何なのでしょう。戦争に勝っても、国の全員が幸せになるのでしょうか。

また、テレビを見ると毎日、犯罪などのニュースが流れています。犯罪を犯す人はきつと、命の大切さ、産んだ人や育ててきた人の苦勞、喜び、その人が殺されてしまったときの悲しみ、辛さをわかっていないのでしょうか。私は、世界中の全ての人に、命のことを改めて考え直してほしいと思います。そうすればきつと、世界から戦争や犯罪がなくなっていくと思います。

私は、命のことを考えて、これからはポスターで呼びかけたりするなどの自分にもできることを見つけ、積極的に行動していきたいと思っています。また、将来は国のみんなの役に立てるような仕事をしたいと思っています。自分が行動することで、犯罪などを減らしていきたいです。そして、一日一日を大切に、過ごしていきたいです。



薬物犯罪からの一考察

千川中学校 1年生
おざわ あやさ
小澤 彩希さん



私は家からピアノ教室に通う時に、いつもある事故現場を通っています。その事故現場は危険ドラッグとよばれる薬物を吸った人がそのまま自動車を運転して歩道につっこんだ場所です。この事故で1人の人が亡くなりたくさんの方がけがをしまいました。見慣れた風景がテレビのニュースにうつった時に、最初は何かドラマを見ているみたいで現実とは思えませんでした。事故から数日後に通ったときにはたくさんのお花や飲み物が供えられていて身近な所に危険は存在していることを実感してドキッとしました。

私は大切な人の命を瞬間にしてうばう原因となった薬物は絶対にこの世の中にはあつてはならないものだ改めて思いました。薬物は一回始めるとずっとやめられなくなるのも未然に防ぐことが何よりも大事だそうです。しかし人々はしよの安心感を求めて誘いに乗ってしまうということが増えてきて、ニュースでもよく報道されています。薬物は昔よりもさらに手に入りやすく中学生でもやってしまった人もいます。どうすれば薬物犯罪を防げるのでしょうか。

私は薬物に手を染めないためにできることが二つあると思います。一つ目は薬物についての様々な知識を小学生の頃から持つことです。私の通った小学校では定期的に薬物の恐ろしさ、よくある誘いのされ方を教えてもらい薬物に手を染めないようにとたくさんのお話をいただきました。このことを受けてみんなも薬物に誘われてもことわって薬物に手を染めないようにできると思っています。

二つ目はコミュニケーションを取っていくことです。多くの人が薬物を始めてしまったきっかけに心の中が不安定になり不安な気持ちが高まり安心したい気持ちの方が大きくなってしまったということがあるようです。現代では人とのつきあいがうすく、となりの人としゃべったこともないという人がいたり、世間話はするけれど、それ以上は立ち入らないという人がたくさんいます。大きな悩みがあつても誰にも相談出来ずに一人で考えこんでいて何かたまりたいと思った時にインターネットで調べ薬物をその場しのぎの逃げ場として選んでしまった人が多くなつてしまっているのだと思います。このようなことを防ぐためにも家族と少しづつでも話したり、会社や学校、近所などでみんなが話し合えるようにしたりしてお互い支えあつていくことが今の私たちにできる大事なことです。

薬物犯罪を防ぐ方法を考えた時、その方法は全ての犯罪防止にもつながる点があると思います。犯罪を起こした時にどんな迷惑がかかり、その後どうなるかを想像できる知識をしっかり備えること。犯罪を起こさない強い心を持ちそれを支える存在を持つことが大切です。犯罪を少しづつでも減らしていくことは平和で明るい国に近づく第一歩になっていくと思います。一人一人の歩が積み重なること。これが社会を明るくするための大切なものです。



新しい人と新しいつながりを

駒込中学校 2年生
すみかわ りな
住川 莉名さん



私は、小さな頃から、父の仕事の関係で、転校をくり返してきました。今は、父が単身赴任をして私達は東京に住んでいますが、幼稚園や小学校の頃は色々な所に引っ越しをくり返し、沢山のの人に会ってきました。引っ越しは、楽しいけれど悲しいことでも。やつと学校にもなれて、友達と仲良くなったこと思ったり、また新しい所に行かなくてはならない。それはとても辛い事です。ですが、新しい家での生活、新しい学校の勉強、新しくできる友達、新しく出会う人々、全てが新しくなってキラキラしていて、不安は消えないけれどすごく楽しみです。そんな引っ越しを通して、私が感じた新しい人との関わり・思いやりについて書きたいと思っています。

新しい学校は、もちろん知らない人ばかりで、とても不安でした。でも、みんなが明るく優しく「こんにちは。」とあいさつをかけてくれて、すごく嬉しかった、ホッとしたのをとてもよく覚えています。どの学校でも、

- ・きちんとあいさつをしましょう。
- ・明るく目を見てあいさつをしましょう。
- ・大きな声であいさつをしましょう。

などとルールがあります。バカバカしいなと思う人もいるかも知れませんが、私は本当にその通りだと思います。「おはようございます。」「こんにちは。」「こんばんは。」「その一言だけでとても明るい気持ちになれるし、初対面だったら顔を覚えるきっかけにもなります。ですが、なんの感情や思いの無いあいさつをされたこともありません。ろうかですれ違った時のこと、目も合わず、ただ口を開けて発音しているだけのように感じました。その人は「あいさつはしなくてはいけない」というものには、考えなかつたように思います。自分から「あいさつがしたい。」ではなく、「言われたからする。」というあいさつの仕方だつたように感じました。あいさつはたつたの三秒ほどです。ですが、その三秒を相手の事を思って言うか、できとうに言うかで、その相手との関係や印象が大きく変わってくると思います。

また、新しい学校や新しい場所は、知らない所だらけです。そんな私に、クラスメイトや友達は、優しく沢山のことを教えてくれました。ふつうじゃないかと思う人もいるかも知れません。でも、その日出会ってすぐの人や、新しく出会った人、知らない人と話だけでもとても不安です。優しく声をかけてくれるほど、嬉しくて安心する事はないと思います。私は、いつも当たり前になっているあいさつや声をかけた人などが、新しく出会った人にとって一番嬉しくて安心できることなんだと、自分の立場になって感じました。その一人一人の行動から、沢山の人のつながりができて、その優しさ広がっていくと思います。それが、相手を思いやることだと感じました。

私が感じた新しい人との関わり・思いやりは、だれにでもだれに對しても、相手の事を思ってあいさつをすること。そして、当たり前のように、何気ないことでも優しく声をかけていくことです。新しく出会う人にも勇気を持ってどんどん関わりを持っていけば、その「思いやり」はどんどん広がり、つながり、明るい未来、明日がやって来ると私は思います。